

自己評価書

(令和7年度)

令和8年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

I 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1
- (3) 学級等の構成
 - 小学部 3学級(複式)
 - 中学部 3学級
 - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(令和7年5月1日)
 - 小学部18人, 中学部18人, 高等部23人
 - 児童生徒数59人
 - 教員数30人(正規教員数)

2 目的

(1)目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ①大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う使命
- ②大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び教育実践研究等を行う使命
- ③地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

(2)教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

<学校教育目標>

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができるような児童生徒を育成する。

<小学部>

- ①豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ②日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
- ③興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

<中学部>

- ①こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ②自他共に大切にできる態度を養う。
- ③生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

<高等部>

- ①心理的な安定を図るとともに、健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ②主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④人とかかわる中で社会性を身に付け、生活を楽しむことができる力を養う。

(3) めざす子ども像

本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

<学校全体>

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- 力いっぱいがんばる子ども

<小学部 めざす児童像>

- 心と身体の健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち、主体的に取り組むことができる児童
- 人との関わりを大切に、集団活動に進んで参加することができる児童

<中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と調和のとれたところを持つ生徒
- 他者とかがわることを楽しめる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

<高等部 めざす生徒像>

- 心と体の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲をもち、チャレンジすることができる生徒
- 自分でできることは自分でし、必要なときは支援を求めながらやり遂げようとする生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

令和7年度の重点目標

①個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実

- ・特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進

②学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の充実

- ・切れ目ない支援と、社会に開かれた教育課程の充実

③特別支援教育のセンター的機能の質的充実

- ・地域のニーズに即した教育相談、研修等の機会や内容の充実
- ・地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップ

④安全・安心な教育環境の整備

- ・各種防災訓練の見直しと、危機管理マニュアルの再構築
- ・児童生徒の目線に立った教室等学校施設の点検の徹底

令和7年度の重点目標及び各学部各校務課の重点課題

鳴門教育大学附属特別支援学校

1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実

・特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進

〈小学部〉

- ①合わせた指導(日常生活の指導,生活単元学習,遊びの指導)を中心に,小学部教育の充実(基本的生活習慣や人とのかわりに関連するもの,遊びなどの充実やSTEAMIC教育での効果的な単元や題材の情報共有化)を図る。
- ②学習活動(基本的生活習慣やSTEAMICに関連)の家庭との共通理解を図る。

〈中学部〉

- ①昨年度に作成した「授業計画・振り返りシート」を改良し,「知識を習得し,経験と結びつけながら,「できた」に気づき,仲間と共に学ぶことを楽しむ生徒の育成」という中学部目標の達成を目指した生活単元学習の実践を推進する。
- ②昨年度の「働く体験学習」から得られた情報を教員間で共有し,指導や支援の内容にいかすことで,「働く体験学習」の充実と効果的な実践を図る。

〈高等部〉

- ①STEAMIC教育の各分野や教科との関連づけを図り,生徒が主体性を発揮することで,卒業後,安定して社会貢献し続けられる力の育成を図る。
- ②卒業後の自立と社会参加に向けて,医療・福祉などの関係機関と連携や教員・保護者と情報共有を行い,生徒指導や進路指導の充実を図る。

〈研究課〉

- ①「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりにおける実践研究をまとめるにあたって,授業づくりのポイントを提案する。
- ②来年度以降の学校研究のテーマを検討するにあたって,知的障がい特別支援学校におけるSTEAMIC教育のさらなる可能性や方向性を見出す。

2 学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の充実

・切れ目ない支援と社会に開かれた教育課程の充実

〈教務課〉

- ①児童生徒一人一人のニーズに応じた個別の指導計画を連携させ,指導要録作成マニュアルの改訂を行う。
- ②大学と連携を図り,教育実習における自己評価表の改訂を行う。

〈指導課〉

- ①学校行事の充実を目指した,計画・実施・改善検討の実施
- ②児童生徒にとって安心・安全な学校の維持及び改善に向けた取組

3 特別支援教育のセンター的機能の質的充実

・地域のニーズに即した教育相談,研修等の機会や内容の充実
・地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップ

〈発達支援センター・特別支援課〉

- ①地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。
- ②地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。
- ③校内の特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。

4 安全・安心な教育環境の整備

・各種防災訓練の見直しと,危機管理マニュアルの再構築
・児童生徒の目線に立った教室等学校施設の点検の徹底

〈総務課〉

- ①訓練のアップデートや危機管理マニュアルの修正等,学校安全体制の改善と教職員の危機

管理力, 実践対応力の向上

②GIGAスクール構想に基づく, 教職員のICT活用指導力の向上と情報セキュリティポリシーの整備

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部
昨年度の評価を踏まえた課題	①小学部教育の充実(日常生活の指導や人とのかわりに関連するもの、STEAMIC教育での効果的な単元や題材の情報共有化)を図る。 ②家庭と連携した学習活動(基本的生活習慣に関連)の取組を進める。
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び,協働的な学び,主体的な学びの充実 *特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進
各部・各課の重点課題	①合わせた指導(日常生活の指導,生活単元学習,遊びの指導)を中心に,小学部教育の充実(基本的生活習慣や人とのかわりに関連するもの,遊びなどの充実やSTEAMIC教育での効果的な単元や題材の情報共有化)を図る。 ②学習活動(基本的生活習慣やSTEAMICに関連)の家庭との共通理解を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①学部会や学部研究会等で学習内容や支援方法等の検討や進捗状況等の確認を年10回以上行う。 ②情報共有アプリや学部通信等で情報発信と,学部懇談で教育活動の説明等を,月1回程度行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 実態把握,指導内容や支援の検討等を行う。 ①-2 4~2月に授業実践を行う。 ①-3 夏季休業期間や冬季休業期間に中間評価と実施計画の見直し,年度末には総括的評価を行う。 ②-1 保護者に発信する主な情報を検討する。 ②-2 月1回程度,学習活動を学部通信や情報共有アプリ等で,紹介したり,説明したりして,共通理解を図る。

実施状況	①学部会では,小学部児童の支援の方向性や支援方法,授業内容などの検討を10回以上行った。学部会では,小学部の教育課程(合わせた指導の位置づけ)や児童の支援方法(構造化,ポジティブ行動支援など)についての研修を行った。学部研究では小学部段階でのSTEAMIC教育の捉え方の共通理解を図ったり,授業づくりチェックシートを活用したりしながら,授業づくりのポイントなどをまとめた。 ②学部通信や情報共有アプリなどで,小学部全体や各学級の学習活動の様子を定期的に保護者に紹介した。学部懇談(4月,6月,1月)では,小学部の児童にとって大切なこと(基本的生活習慣や遊び,体験的な学習など)や,学校研究での実践(STEAMIC教育)を説明し,保護者への情報提供や教育の方向性,学習・支援内容の理解を図った。			
評価指標の達成度及び成果	①学部会記録,特別支援教育研修資料,学部研究会資料 ②小学部通信(6回),学部懇談(3回),情報共有アプリ配信(チャンネル:各学級)			
総合評価 (記号を○で囲む)	○ A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	①学部会記録,学部研究会記録,特別支援教育に関する講話資料 ②学部通信,情報共有アプリ配信内容,学部懇談資料			
次年度の課題	①児童への支援(日常生活の指導や人とのかわりに関連するもの)の充実や,教員の実践力の向上を図る。 ②家庭支援につながるような学習活動(基本的生活習慣,家庭・地域生活に関連)の取組や情報発信に取り組む。			

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部
昨年度の評価を踏まえた課題	①昨年度研究の成果と課題をいかしたSTEAMIC教育の実践。 ②昨年度の「働く体験学習」から見えた、各生徒の課題の解決に向けた指導の実践。
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実 *特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進
各部・各課の重点課題	①昨年度に作成した「授業計画・振り返りシート」を改良し、「知識を習得し、経験と結びつけながら、「できた」に気付き、仲間と共に学ぶことを楽しむ生徒の育成」という中学部目標の達成を目指した生活単元学習の実践を推進する。 ②昨年度の「働く体験学習」から得られた情報を教員間で共有し、指導や支援の内容にいかすことで、「働く体験学習」の充実と効果的な実践を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 今年度改良した「授業計画・振り返りシート」を用いて、各学級が立案した生活単元学習の授業について説明・検討する学部研究会を、研究課と協力しながら年間3回以上実施する。 ①-2 「授業計画・振り返りシート」を実際に使って意見を出し合って改良を重ね、今年度最終版を1枚作成する。 ①-3 中学部目標について、達成度(この部分は達成できた・ここは課題として残った)について話し合う学部研究会を3月に実施する。 ②-1 4月に、昨年度の「働く体験学習」振り返りシートを活用した学部教員間共有の機会を設定する。 ②-2 自立活動や作業学習、職業・家庭などの授業において、各生徒の昨年度の課題の改善に関わる指導内容を1つ以上設定する。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4月】 ①-1 学部研究会(今年度の研究の方向性) ②-1 昨年度の「働く体験学習」についての振り返りシートをTeamsにアップロード 【5月～12月】 ①-1 学部研究会・授業実践 ②-2 授業実践 【1月】 ①-1, ①-2 授業実践 ②-1, ②-2 「働く体験学習」事前・事後学習・実施・今年度の振り返り 【3月】 ①-3 学部研究会(総括的評価)
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実施状況	①-1 今年度、学部研究会を、研究課と協力しながら12回実施した。 ①-2 今年度の「授業計画・振り返りシート」最終版を作成した。 ①-3 中学部目標について、達成度(この部分は達成できた・ここは課題として残った)について話し合う学部研究会を2月に実施。 ②-1 4月の支援会議において、昨年度の「働く体験学習」振り返りシートをTeamsにアップロードし、学部教員間共有の機会を設定した。 ②-2 自立活動や作業学習、職業・家庭などの授業において、各生徒の昨年度の課題の改善に関わる指導内容を1つ以上設定した。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標の達成度及び成果	①実施計画通りに実施することができた。学部研究で作成した「授業計画・単元振り返りシート」を活用しながら、STEAMIC教育を生活単元学習を通して実践することができた。 ②実施計画通りに実施することができた。「働く体験学習」において、各生徒が学習したことをいかして作業に取り組んだり生活したりする様子を見取ることができた。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						

評価根拠	①学部研究会記録, 「授業計画・振り返りシート」 ②Teams上の学部会フォルダ, 個別の指導計画, 「働く体験学習」振り返りシート
------	-----------------------------------------------------------------------

次年度の課題	・今年度研究の成果と課題をいかし、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業作りをより深めるための、各教科等の見方・考え方を単元目標に落とし込んだ生活単元学習の実施計画の作成と授業の実施。 ・生活単元学習や各行事と関連付けた、各教科等の年間指導計画の作成と授業の実施。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部
昨年度の評価を踏まえた課題	①生徒の協働的で主体的な学びの実践について検討 ②生徒指導及び進路指導の充実
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実 *特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進
各部・各課の重点課題	①STEAMIC教育の各分野や教科との関連づけを図り、生徒が主体性を発揮することで、卒業後、安定して社会貢献し続けられる力の育成を図る。 ②卒業後の自立と社会参加に向けて、医療・福祉などの関係機関と連携や教員・保護者と情報共有を行い、生徒指導や進路指導の充実を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①学部研究で生徒の試行錯誤する様子が見られた場面の環境や支援、評価方法などの検討を年6回以上行う。 ②生徒の指導方法や実態の共通理解を学部会やケース会、保護者懇談会等を年15回以上行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4～5月】 ①②実態把握（発達検査・保護者懇談、放課後等デイサービス・相談支援事業所聞き取り） 【6～8月】 ①授業実践、生徒指導及び進路指導、計画の見直し（家庭訪問後） ②進路指導（第Ⅰ期就業体験）、高3進路懇談 【9～2月】 ①授業実践、生徒指導及び進路指導、実態把握（保護者懇談） ②進路指導（第Ⅱ期就業体験）、高3進路懇談 【3月】 ①②総合評価及び次年度の課題の検討 ※年間:必要に応じて、ケース会議開催

実施状況	①学部会や学部研究会において、作業学習でのSTEAMIC教育の実践を通して、生徒の主体的な学びに向かう姿の見取りについて検討した。本校高等部の合わせた指導について共通理解を図った。 ②4月と8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズの聞き取り、5・6月に生徒への太田ステージ評価、1・2年生へのS-M社会能力検査を実施した。その結果を学部会で情報共有したり、保護者懇談を実施し、生徒指導や進路指導につなげた。			
評価指標の達成度及び成果	①学部研究5回以上実施し、大学教授からの指導助言を踏まえ高等部教員で協議を重ね、授業改善や授業づくりに取り組んだ ②生徒指導主事や進路指導主事、養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、保護者及び本人のニーズを踏まえ、卒業後の自立と社会参加に向け3回以上ケース会を実施した。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○ A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①学部研究会記録及び学部会研究についての記録 ②個人懇談記録及び発達検査結果用紙、ケース会議記録、就業体験Ⅰ期・Ⅱ期評価表			
次年度の課題	・生徒指導や進路指導の充実を図る。 ・主体的に学ぶ生徒の育成のため、授業改善に取り組む。			

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	特別支援課・発達支援センター
昨年度の評価を踏まえた課題	①地域のニーズに合わせた夏季公開研修会の内容の検討について ②外部専門家による校内及び校外支援の運用について ③校内の専門性向上に向けた取組について
今年度の重点目標	3 特別支援教育のセンター的機能の質的充実
各部・各課の重点課題	①地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。 ②地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。 ③校内の特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①巡回相談員による訪問型及び来校型の教育相談の地域支援を年間100回程度実施し、学んだことを活かして学校園や関係機関などのニーズに応じて研修会講師を複数回務める。 ②外部専門家(理学療法士・作業療法士)による校内支援と校外支援を合わせて10回程度実施する。 ③特別支援教育や進路に関する校内研修を3回以上開催する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①②各学校園及び徳島県立総合教育センター特別支援・相談課、徳島市教育研究所、徳島市子ども保育課などとの連携を密にし、地域の教育的ニーズの高い事例について相談支援を行う。 ②外部専門家の校内来校・校外訪問予定 (校内来校)5月・6月・7月・9月:各1回 12月:2回 (校外訪問)7月・8月・10月・11月:各1回 ③校内研修の予定 4月:個別の教育支援計画 8月:進路, アセスメント, カウンセリング

実施状況	①巡回相談員による教育相談を161件(1月末)実施した。また、徳島県立総合教育センター特別支援・相談課、徳島市教育研究所、徳島市子ども保育課などと連携をとりながら、地域のニーズを踏まえ、研修の講師を年間4回務めた。 ②外部専門家(理学療法士・作業療法士)による校内支援6回と校外支援4回、合わせて10回実施した。 ③全体研修として、特別支援教育(個別の教育支援計画, カウンセリング)や進路に関する研修を校内で3回、希望研修として地域の公開研修会やアセスメントに関する研修会を4回開催した。								
評価指標の達成度及び成果	①発達支援センターが所有する教材や書籍の貸出、電話や来校相談に応じた。また、WISC-VやK-ABC IIなどのフォーマルアセスメントの研修を受け、教育相談で活用した。徳島県立総合教育センターや市町村教育委員会と連携しながら、地域の特別支援教育推進に貢献した。 ②児童生徒の発達の段階を捉えたり、粗大運動や微細運動を観察したりすることを通して、指導目標の設定や手立ての検討に活かした。 ③全体研修や希望研修を通して、個別の教育支援計画や進路、子どもの支援や見取りについて学ぶ機会として実施することができた。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70~79%</td> <td>50~69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
A	B	C	D						
80%以上	70~79%	50~69%	49%以下						
評価根拠	①教育機関からの派遣依頼文書, 教育相談実施状況, 教育相談先へのアンケート ②個別の指導計画, 外部専門家相談シートやアンケート ③研修会後のアンケート								
次年度の課題	①今日の特別支援教育の動向を踏まえつつ、地域のニーズに合わせた夏季公開研修会の内容の検討について ②外部専門家(PT・OT・ST)による校内及び校外支援の運用について ③校内の専門性向上に向けた取組について								

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課
昨年度の評価を踏まえた課題	①指導の一貫性と継続性を保ち、教育実践を向上させる。 ②本実習の充実に向けた大学との連携。
今年度の重点目標	2 切れ目ない支援と社会に開かれた教育課程の充実
各部・各課の重点課題	①児童生徒一人一人のニーズに応じた個別の指導計画を連携させ、指導要録作成マニュアルの改訂を行う。 ②大学と連携を図り、教育実習における自己評価表の改訂を行う。

重点課題に対する具体的な評価指標	①指導要録の基本的な考え方や改善点を確認し、年間3回程度の課内検討を行い、指導要録作成マニュアルを改訂する。 ②本実習における自己評価表の改訂に向けて、課内検討を3回程度行うとともに、大学の本実習担当者とも協議を行い改訂案を作成する。その後、教育実習検討委員会で協議しまとめ、最終的な改訂版を作成する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>【4～8月】</p> <p>①指導要録に関する教員アンケートを実施し、課題をまとめるとともに、改訂のための資料を収集する。 ②本実習の自己評価表について検討・協議を行い改訂版を作成し、校内研修において周知する。</p> <p>【9月～12月】</p> <p>①指導要録作成に関する検討事項を課内で協議し、その協議に基づいて指導要録作成マニュアルの改訂版を完成させる。 ②改訂された自己評価表を本実習において実施するとともに、更に改善を図るための事後アンケートを行う。</p> <p>【1月～3月】</p> <p>①改訂した指導要録作成マニュアルを周知し、そのマニュアルに基づいて指導要録を作成する。 ②収集した課題について課内で再検討し、教育実習検討委員会で協議して改訂点をまとめ、改訂版を完成させ、その活用について周知する。</p>

実施状況	<p>①指導要録に関する教員アンケートを実施し、記述の分かりにくさ等改善が必要な点を把握した。集約した課題を基に、課内検討を3回以上実施し、記述例・表記統一等、指導要録作成マニュアルの改訂案を作成した。 ②本実習における自己評価表について、大学担当者と2回以上協議し、評価の客観性を高めるための改訂項目（記述欄の整理・評価観点の明確化等）を整理した。3回以上の課内検討を経て改訂版を作成し、校内研修において周知した。その後、本実習において活用し、事後アンケートを実施して次年度に向けた課題をまとめた。</p>			
評価指標の達成度及び成果	<p>①指導要録作成に関する課題を明確化し、教員アンケートと課内協議により、指導要録作成マニュアルの改訂案を作成することができた。 ②自己評価表の改訂に向けて大学と連携して協議を行い、学校と大学の双方の視点を踏まえた実習評価表の改善を実現した。校内研修での周知と本実習での活用が行われた。</p>			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<p>①教員アンケートの集約結果、課内検討会議録、指導要録作成マニュアル改訂案 ②大学担当者との協議録、事後アンケートまとめ、自己評価表改訂版</p>			
次年度の課題	<p>○改訂した指導要録作成マニュアルの定着と運用状況の確認。 ○自己評価表の実施後の課題（記述量・評価観点のさらなる具体化等）の改善。 ○教育実習手引の掲載指導案の刷新。</p>			

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課
昨年度の評価を踏まえた課題	① 学校研究最終年度となるため、3年間の研究成果を有意義なかたちで公開すること ② 来年度以降の学校研究のテーマについて計画を立てていくこと
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実 ＊特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進
各部・各課の重点課題	① 「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりにおける実践研究をまとめるにあたって、授業づくりのポイントを提案する。 ② 来年度以降の学校研究のテーマを検討するにあたって、知的障がい特別支援学校におけるSTEAMIC教育のさらなる可能性や方向性を見出す。

重点課題に対する具体的な評価指標	① 児童生徒の「主体的な学び」の育成を目指した授業づくりに効果的と思われる要因について、研究課会で3回以上協議し、全体研究会で提案する。 ② 次年度以降の学校研究のテーマについて、研究課会にて4回以上協議し、次年度以降の研究への移行が段階的にできるような計画を立案する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4月～7月】 ① 研究の方向性について、研究運営委員会、全体研究会で検討し、共通理解を図る。＊授業研究会に向けての指導案の検討を行う。 ① 研究発表会に向けてのポスター内容について検討を行う。 ① 各学部1回の研究授業を行い、全体授業研究会を実施する。 ① 全体授業研究会の研究協議で出された意見から、授業づくりの工夫や要因となる支援や活動をまとめる。 【8月～12月】 ① 全体研究会において、児童生徒の「主体的な学び」の育成を目指した授業づくりにおける研究課としてのポイントを提案する。 ① 実践した取組についての成果と課題をポスター形式にまとめる。 ② 次年度以降の学校研究のテーマの検討についての計画を立案する。 ② 計画にそって学校研究のテーマを検討できるよう、研究課としての学校研究テーマを検討し、提案できる準備を進める。 【1月～3月】 ① 研究発表会を開催し、今年度の成果や課題等の発表を行う。 ① 今年度の授業実践の成果と課題をまとめる。 ② 次年度以降の学校研究テーマについてアンケートを実施し、全体研究会で新たな研究テーマを周知するとともに研究の方向性を示す。

実施状況	① 「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりのポイントについては、5月の研究課会で協議して、今年度の指導案に盛り込み5月の全体研究会で周知することができた。また、12月の全体研究会において、授業づくりのポイント(児童生徒の気づき)についての詳細を周知できた。 ② 次年度以降の研究のテーマに関して、8月の研究課会より協議を7回実施した。また、現在の学校研究の課題に挙げられている「合わせた指導の各教科等との関連」等について、他県の特別支援学校開催している研修や、研究発表会等に参加して知見を深めることができた。								
評価指標の達成度及び成果	① 「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指した授業づくりのポイントについては、協議を4回実施し、12月の全体研究会において、指導案に関する質問の時に、「児童生徒の目標達成に向けた、課題発見や課題解決への気づき」が授業づくりのポイントとなった経緯を説明することができた。 ② 次年度以降の研究のテーマに関して、8月の研究課会より協議を重ねた。研究課としての研究テーマ提案を12月と設定し、計画的に協議を7回実施した。12月の研究課会で次年度以降の研究テーマを提案し、各学部主事と管理職には周知することができた。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">(A)</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>50～69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	(A)	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
(A)	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	① 研究課会資料, 全体研究会資料 ② 研究課会資料								
次年度の課題	① 学校研究を進める上で、研究テーマの軸となるものを研究課として明示して研究を進める。 ② 合わせた指導と各教科等の関連や各教科等の見方・考え方について校内で共通理解を行うためにも、全体研修を実施する。								

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課
昨年度の評価を踏まえた課題	①学校行事の充実を目指した計画・実施や改善検討 ②生徒指導・人権教育が連携のとれた取組の計画・実施
今年度の重点目標	2 学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現・切れ目ない支援と、社会に開かれた教育課程の実現
各部・各課の重点課題	①学校行事の充実を目指した、計画・実施・改善検討の実施。 ②児童生徒にとって安心・安全な学校の維持及び改善に向けた取組。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1運動会や学校祭においては課内検討を年間各2回ずつ実施する。 ①-2児童生徒会役員選挙の改善検討を年間2回実施する。 ②-1人権教育・生徒指導が連携をとり、年間2回研修を実施する。 ②-2「いじめ防止子ども委員会」を年間3回以上実施する。 ②-3学校生活アンケートを年間2回実施し、書式検討を年間1回以上行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1晴雨両案での運動会実施の検討(4月,5月),学校祭での外部団体の販売充実の検討(8月,10月)。 ①-2児童生徒会役員選挙の仕組み等について、改善検討。(7月,10月) ②-1あいぽーとと連携した人権教育研修の実施(8月) ②-1スクールカウンセラーと連携した生徒指導研修の実施(8月) ②-2「いじめ防止子ども委員会」の運用。(4月・7月・3月) ②-3学校生活アンケートの実施。(6月・2月) ②-3学校生活アンケートの書式検討。(6月)

実施状況	①-1晴雨両案での運動会実施の検討は2回,学校祭での外部団体の販売検討は4回実施することができた。 ①-2児童生徒会役員選挙の仕組み等の改善に向けた検討を年4回実施することができた。 ②-1計画時期にあいぽーとと連携し、「減災教育」をテーマとした教員対象の人権教育研修を実施することができた。 ②-1計画時期にスクールカウンセラーと連携し、教育相談の視点を踏まえた生徒指導研修を実施することができた。 ②-2いじめ防止子ども委員会を設置し、集会を5回開催することができた。 ②-3計画時期(6月)に実施することができ、2月にも実施予定である。 ②-3計画時期にアンケート項目を検討することができた。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標の達成度及び成果	①計画した時期にそれぞれの行事についての内容の検討を行うことができ、学校祭の外部販売や児童生徒会役員選挙については計画以上の回数検討を重ねることができた。運動会・学校祭については、保護者アンケートで約9割の「良かった」との回答が得られた。 ②計画通り実施することができた。いじめ防止子ども委員会は、計画よりも多く開催することができた。人権教育研修では、教員アンケートで9割以上の「良かった」「わかりやすかった」の回答を得られた。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下

評価根拠	・検討・実施回数 ・行事・研修後の教員・保護者アンケート
------	---------------------------------

次年度の課題	・学校行事の充実(地域や社会との連携をどのような形で実現するか等) ・本校の児童生徒の実態に応じた人権研修内容の検討 ・研修計画の検討(他の課と相談) ・児童生徒会役員(いじめ防止子ども委員会)の役割の充実 ・働き方改革に向けた業務の精選,スマート化
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和7年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課
昨年度の評価を踏まえた課題	① 学校安全対策における地域や周辺施設との連携の促進と教職員の危機管理能力,実践対応力の向上 ② 教職員の ICT 活用指導力のさらなる向上
今年度の重点目標	4 安全・安心な教育環境の整備
各部・各課の重点課題	① 訓練のアップデートや危機管理マニュアルの修正等,学校安全体制の改善と教職員の危機管理能力,実践対応力の向上。 ② GIGAスクール構想に基づく,教職員のICT活用指導力の向上と情報セキュリティポリシーの整備。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 周辺地域の施設や関係機関と連携した学校安全に関する訓練,安全教育活動等を年に6回以上実施する。 ①-2 実際に起こりうる想定(これまでに未実施のもの等)を訓練の中に加え,避難訓練や机上訓練等を実施する。 ②-1 教員への ICT 活用指導力アンケートを年2回実施する。 ②-2 ICT全体研修を含むワークショップ等を年3回以上実施する。 ②-3 クラウド活用を含めた情報資産の重要性分類の見直しを実施する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【通年】 ① 各種訓練・研修の実施(年8回)および危機管理マニュアルの改善(~2月)施設設備の安全点検(毎月/随時) ② GIGA スクール推進委員会(年3回),全体研修およびワークショップ 【4月~7月】 ① 学校安全委員会(危機管理マニュアル運用について) ② 教職員 ICT 活用指導力アンケート(1回目) 【8月~12月】 ① 学校常備食の入れ替え,防災倉庫の整理 ② ICT 活用に関する校内全体研修【情報モラル】 【1月~3月】 ① 学校安全委員会(本年度の報告および来年度に向けての協議) ② 教職員 ICT 活用指導力アンケート(2回目)

実施状況	①-1 警察や消防,保護者,自主防災会等と連携して,引き渡し訓練,地震津波避難訓練等の学校安全に関する訓練や研修,安全教室等を7回実施した。 ①-2 夏季に実施された減災研修を受け,使用教室の避難箇所の確認等を新たに行い,それを元に地震に対する避難訓練を2回実施した。また,熱中症の対応について,活動の基準を新たに設定し,緊急時の対応研修を実施した。 ②-1 教員へのICT活用指導力アンケートを6月,2月に実施した。 ②-2 情報モラルをテーマとしたICT全体研修を含む,ミニワークショップ等を計4回実施した。 ②-3 各学部,各校務課の協力の下,学校業務における情報資産の重要性分類を見直し,一覧表を作成した。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価指標の達成度及び成果	① 新たな視点を踏まえて訓練や研修を実施することで,教職員間の防災や安全への意識の向上や学校の安全体制や危機管理マニュアルの改善を図ることができた。 ② 全体研修で子どもたちを取り巻くネットトラブルや情報モラルについての知識を深めたり,ミニワークショップで教員同士によるタブレット活用の情報を共有したりすることができた。また,情報セキュリティの視点で,校務で使用するデータを主とする情報資産を確認し,その重要性分類を改めて見直すことができた。
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">○ A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70~79%</td> <td style="text-align: center;">50~69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	○ A	B	C	D	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
○ A	B	C	D						
80%以上	70~79%	50~69%	49%以下						

評価根拠	①各種訓練・研修等の計画および記録,事後アンケート結果,危機管理マニュアル ②教職員ICT活用指導力アンケート,研修等の事後アンケート結果,「鳴門教育大学附属特別支援学校 情報資産分類一覧表」
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の課題	○ 学校の安全体制の改善および教職員の危機管理能力,実践対応力の向上 ○ クラウドを使用した情報資産の管理方法の検討と活用の推進
--------	---------------------------------------------------------------------